

令和元年度 第2回横浜市創造界限形成推進委員会

次 第

日時：令和元年12月13日（金）

14時30分～16時30分

会場：波止場会館4階大会議室1・2

【審議】

- 1 委員長・副委員長の選任／分科会委員の指名
- 2 令和2年度旧第一銀行横浜支店の活用手法について
- 3 象の鼻テラス運営団体選考について

【報告】

- 4 その他

【資料】

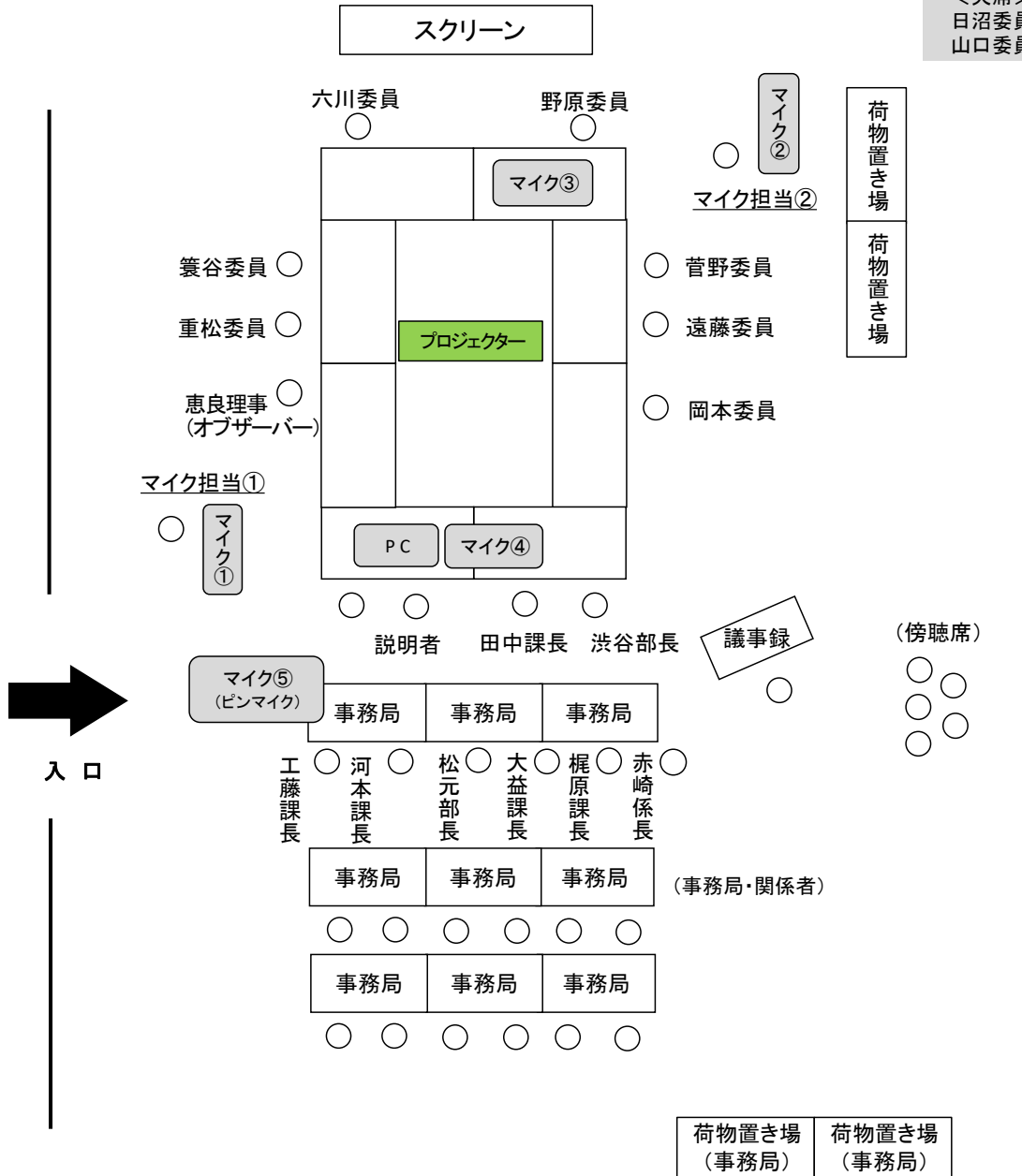
①次第 ②席次 ③前回委員会議事録（令和元年7月12日開催分）
④ [資料1] 横浜市創造界限形成推進委員会 委員名簿（全体会／分科会）
⑤ [資料2] 令和2年度旧第一銀行横浜支店の活用手法について
⑥ [資料3-1] 「象の鼻パーク文化観光交流拠点（象の鼻テラス）活用業務委託」運営団体選考（評価）結果の報告について
⑦ [資料3-2] 象の鼻テラス運営団体選考分科会 開催経過及び選考（評価）結果
⑧ [資料3-3] 【回収】提案概要
⑨ [資料4] 令和2年度事業評価シート（案）

【席次表】

令和元年度第2回横浜市創造界隈形成推進委員会

日時: 令和元年12月13日(金) 14時30分～16時30分
 会場: 波止場会館4階大会議室1・2

<欠席>
 日沼委員
 山口委員



令和元年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会 議事録

日 時	令和元年7月12日(金) 10:00~11:30	
開催場所	YCC ヨコハマ創造都市センター 3階スペース	
出席者 (敬称略)	<p>■委員</p> <p>六川勝仁(馬車道商店街協同組合 理事長) <副委員長> 岡本純子(公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・オフィサー) 菅野幸子(アーツ・プランナー/リサーチャー) 日沼禎子(女子美術大学芸術学部 教授) 簗谷則美(株式会社ミノヤアソシエイツ 代表取締役) 山口真樹子(国際交流基金アジアセンター 舞台芸術コーディネーター)</p> <p>■オブザーバー</p> <p>恵良隆二(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 専務理事)</p> <p>■事務局(説明者等)</p> <p>渋谷昭子(文化芸術創造都市推進部長) 田中昌史(創造都市推進課長) 工藤裕二(創造都市推進課担当課長) 河本一満(創造都市推進課創造まちづくり担当課長) 松元公良(文化プログラム推進部長) 梶原敦(文化プログラム推進課トリエンナーレ担当課長) 石井崇之(創造都市推進課担当係長) 田中裕記(創造都市推進課担当係長) 長谷部千晶(創造都市推進課担当係長) 安藤亜矢(創造都市推進課創造まちづくり担当係長) 安藤準也(創造都市推進課創造まちづくり担当係長) 赤崎由香(文化プログラム推進課トリエンナーレ担当係長)</p>	
欠席者	<p>野原卓(横浜国立大学大学院 准教授) <委員長> 遠藤新(工学院大学建築学部 教授) 重松久恵(ブランド・マネジメント・コンサルタント)</p>	
開催形態	議題1 公開 (傍聴者0名) / 議題2 非公開	
議 題	<p>1 平成30年度事業評価について</p> <p>2 象の鼻テラス運営団体選考のスケジュールについて</p> <p>その他</p>	
決定事項		
	事務局	<p>【開会】</p> <p>○定刻となりましたので、令和元年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会をはじめさせていただきます。</p> <p>○本日は野原委員長が欠席のため、委員会運営要綱第6条第4項により、委員長不在の場合は副委員長が職務を代理するとあり、本日の議事は六川副委員長にお願いしたい。</p>

議 題 1	事務局	<p>【事務局紹介】</p> <p><人事異動があったため、事務局の紹介を行った。></p>
		<p>【配布資料の確認】</p>
	事務局	<p>【定足数の確認】</p> <p>○委員 9 名中 6 名の出席があり、委員会運営要綱第 7 条第 3 項により委員会の成立となる。</p>
	事務局	<p>【本会議・議事録の公開・非公開の決定】</p> <p>○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条により原則公開となるが、議題 2 については、第 7 条第 2 項第 6 号の規定に該当するため非公開とする。</p>
		<p>1 平成 30 年度事業評価について</p>
	六川副委員長	<p>○それでは議題 1、平成 30 年度事業評価について事務局からの説明をお願いしたい。</p>
	長谷部係長 石井係長	<p><平成 30 年度事業評価について、事務局からの説明及び各分科会の議長から補足説明を行い、議題について審議が行われた。></p>
		<p>[補足説明]</p>
	六川副委員長	<p>○ありがとうございました。それぞれの分科会議長から補足説明などあればお願いしたい。</p>
	日沼委員	<p>○初黄・日ノ出文化芸術振興拠点について。NPO として本拠点を運営して 10 年以上になる。アーティスト支援や地域の環境づくりに丁寧に取り組んでおり、芸術拠点の形成、文化の耕しを継続して行ってきたことは評価できる。レジデンスを卒業したアーティストが拠点周辺に住み着くことが増えているが、今後は、残ったアーティストの数の見える化や、アーティストや地域住民が安心して住める場所として根付かせていくことが課題となる。また 10 年以上経過する創造都市施策とどのようにリンクさせていくのか、今後の目標についても改めて考える時期にきている。</p>
山口委員	<p>○急な坂スタジオについて、運営を着実に進めており、若手アーティストの稽古場としての役割を適切に果たしている。単に稽古場を提供するだけではなく、稽古場利用者の相談対応、利用環境への配慮などきめ細かく需要に対応している。また急な坂食堂をオープンさせたことによって、稽古場利用者と地域住民の方が利用されていて、そこで市民とのプログラムにも繋がる可能性を持たせている。体験型の子ども向けワークショップでは、保護者に伝統芸能の鑑賞の仕方を提供することも行っている。また、最近</p>	

		<p>舞台芸術では批評、レビューの場が少なくなっている現状を踏まえ、若手に連載企画を提供することなども行っている。HPも丁寧に分かりやすく制作しており、総合的に高い評価である。課題としては、少人数で運営しており、現在一般的水準から比べて低いと思われる人件費を適正にするなど労務関連の見直しが必要で、舞台芸術界で制作を担う人々のために、また運営を安定して進めていくためにも当拠点が運営のロールモデルになるような、市の側の思い切った対応が望まれる。</p> <p>○BankART1929 について、平成 30 年度は開設後初年度であり、運営期間 4 か月のうち 2 か月間は引っ越しや整備に費やされ、整備を行う中で想定外の工事もあったものの、収支が成り立ったことは評価できる。次年度に当たる令和元年度に向けての準備も着実に進み、スタートとしては良好である。また集客についてはこれまで運営してきた拠点と比べても大きく落ち込んでいることはないようである。分散型の拠点にも慣れてきたが、現在は、新市街地という場所や、分散した拠点で事業を実施する意義などを見出し、新たな展開を模索している。創造都市が始まった当初から取り巻く環境も変わってきている。例えば新たなターゲットとして、企業市民の存在感の増加、また企業との関わりも高まる中で、創造都市の共通認識を再確認しておきたい。</p> <p>○YCC ヨコハマ創造都市センターについて、概ね運営は順調で評価も高いものになった。敷居の高いアートに対して子どもたちが触れられる工夫がなされており、具体的にはセゾン美術館がアンディ・ウォーホルの本物の絵を持ってきて展示し、その前で子供たちが自分の顔を写生するというのは誇らしい企画であった。1 階のカフェについては、ロケなどのビデオ撮影を通じ、一部のファンの聖地となり、カフェの集客へと繋がっている。また馬車道商店街との連携も実現し活発であった。課題は音楽関連の事業があってもよいという意見があった。最後に横浜市の創造都市施策をどのような方向性にもっていくのか。これは肝の部分であり、大きな課題でもある。</p> <p>○象の鼻テラスについて、市民の方の無料休憩施設という前提の目的がある中で、運営団体は質の高いアートを提供しなければならないというバランスをとるのが難しい拠点である。その中で現運営団体の工夫が見られ、概ね高い評価が得られている。また、施設運営 10 年目の節目を迎え、当拠点の未来をどうするかという視点から行われたフューチャースケーププロジェクトは、公募型で市民から様々なアイデアが生まれた面白い企画だった。他方、課題としてゾウノハナ・バレエ・プロジェクトはどのように人材を育成していくのか。ポートジャーニー事業は、どのような成果があり、その成果が市民にどれだけ認知されているのか課題である。また昨年度から施設内でアンケートを実施したが、文化プログラムに関するアンケートはまだ実施されていない。アートをどのように評価するか実際には難しい。次回、アンケートには文化プログラムに関する内容を一項目</p>
叢谷委員		
六川副委員長		
菅野委員		

	<p>六川副委員長</p> <p>石井係長</p> <p>六川副委員長</p> <p>恵良氏</p>	<p>設けて、そこからきちんとデータを取り、分析・評価していくことが必要と思われる。</p> <p>○THE BAYSについては野原委員長が欠席となるが、横浜市から補足説明はあるか。</p> <p>○質疑内で質問等があれば事務局から回答を行いたい。</p> <p>○オブザーバーである恵良氏から意見などあればお願いしたい。</p> <p>○まず初黄・日ノ出文化芸術振興拠点は、今後は新市庁舎の立地を意識すると大岡川を活用した展開が必要と思われる。また創造界限の人材集積の視点からも地域に積極的に出ていく段階にきている。次にBankART1929は、分散型拠点であることを積極的に捉えていくことが必要である。横浜駅方面側のみなどみらいは変化しており、企業市民、企業で働く方の個人的な関係でもっと連携が必要と思われる。また、中小企業に代わる言葉である地域企業の視点を持つことも創造産業の連携を考える上で良いと思う。最後に創造都市全体の次へのステージを考えるときに、SDGsの視点で捉えると、都市間の国際的なネットワークの可能性など、創造産業の連携のあり方も、皆さんに理解されやすい部分も出てくるとと思われる。</p> <p>〔質疑〕</p> <p>六川副委員長 ○ありがとうございました。ここまでの各分科会議長の補足説明を含めて質問や意見はあるか。</p> <p>岡本委員 ○創造都市施策の見直しを行う時期に来ているという意見が出ていたが、その中でもスタッフの運営体制について踏み込んで進めていただきたい。現場の裁量に任せるのは正しいと思うが、継続的運営を行っていくためには、予算と人員が適正であるか留意しなければいけない。</p> <p>菅野委員 ○賃金の問題はどの拠点も共通の課題である。また創造都市の考え方をどのように発展させていくのかについても各拠点共通の課題である。創造都市という言葉や概念をどのように広げていくのか。特に象の鼻テラスは、今年、運営団体選考というタイミングを迎えており、運営方針について議論されるべきである。また創造産業の経済化という考え方において、スタッフの雇用というのは、創造産業という経済を支える一人として考え、適切に人員を確保できると良い。人の雇用については大きく考える必要があり、例えば急な坂スタジオのカフェ運営でもそこで雇用が発生しているが、劇場では若手の俳優やダンサーが、このようなサービス関連で雇用が生まれると助かる。創造界限全体でワクワク感のある雇用への仕組みづくりができると良い。創造界限全体の活性化を流動的にすることで、経済的な面で発展性を作れないかと考える。</p> <p>日沼委員 ○一つはスタッフ体制について、初黄・日ノ出文化芸術振興拠点ではスタッフがキャリアシフトしており、特殊な文化事業が認められ、新たな仕事に引き抜かれている方もいる。さらに人が抜けた場所へ新たな人材が加わるという循環が生まれてきている。当拠点で人材がどう育っていくかは、人</p>
--	--	--

<p>議 題 2</p>	<p>田中課長</p> <p>六川副委員長</p> <p>菅野委員</p> <p>渋谷部長</p> <p>六川副委員長</p>	<p>材育成のブランドとなるのではないか。次に拠点同士の対話が少ないのではないか。自らの拠点事業に集中するあまりに、創造都市全体における自分たちの役割が見えなくなっている。創造界限全体を統括するディレクターの存在が必要という議論の前に、各拠点のディレクター同士が話し合う場が必要である。また BankART1929 の分散型拠点はまちの中に密着することで、場所に頼らない新たな繋がりづくりが必要である。</p> <p>○これからの創造都市をどのように進めていくのかについては、いろいろとご意見をいただいているが、横浜市としても課題として認識している。創造都市施策がスタートしてから約 15 年が経過し、アーティストの集積や、例えば黄金町のようにまちづくりとしても成果が上がってきている。一方で、横浜や創造都市施策を取り巻く状況が変化していることを捉え、これまでの活動や取組を振り返り、検証を行ってまいりたい。</p> <p>○各拠点は課題を抱えながら運営を行っている。とにかく創造都市の施策である幹の部分の部分が固まってこなければならぬ。また恵良氏の意見にもあったSDGs などにも対応しつつ、創造都市施策を進めていただきたい。</p> <p>○今後の創造都市の在り方について参考的な紹介になるが、シルクドソレイユという団体があり、パフォーマンスはもちろんご存じかと思われるが、企業としての考え方が参考になる。企業の社会的責任を前面に出しており、地球市民としてサーカスを行うことで、どう社会に貢献していけるのか、また環境問題への取組、サーカスをまちの中核として地域コミュニティ全体をどう考えるか。そのような将来を見据えた団体であり、私は関心を持っている。そのようにアートの役割の可能性、ただ表現を行うのではなくアートの社会的役割、アートの在り方としての社会的責任、社会貢献、創造産業などにどう関わるか。横浜市は当分野で先進的に牽引していただきたいので、このような視点を取り入れていただきたい。</p> <p>○創造都市施策が始まって約 15 年が経過した。社会情勢変化にあわせた、施策の見直しも必要である。創造都市はまちづくり戦略として捉えているので、庁内間での連携も強化し、各拠点の力を借りて一緒に面として将来の方針を考えていきたい。またこれまでの創造都市の検証を行うことも大切だ。委員の皆様にも引き続き支援をお願いしていきたいと考えている。</p> <p>○これは提案になるが、創造都市施策に対する各委員の意見を委員会としてヒアリングできるといい。例えば、各拠点の運営期間が 5 年間でよいのかどうかなどさまざまな課題もあると思われる。そのあたり検討していただきたい。</p> <p>○質問意見が以上であれば、この議案については了承としたい。</p> <p>2 象の鼻テラス運営団体選考のスケジュールについて</p> <p><象の鼻テラス運営団体選考のスケジュールについて、事務局からの説明が行われた。></p>
--------------	---	---

	<p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>その他</p> <p>〔連絡事項〕</p> <p>①横浜トリエンナーレ 2020 について <横浜トリエンナーレ 2020 について、事務局から説明が行われた。></p> <p>②「創造都市横浜」の配布資料について ○これまでも創造都市の取組を紹介するパンフレットを配布していましたが、情報を更新し、新たに作成しましたのでご覧ください。</p> <p>③議事録（今回）の確認依頼 ○事務局にて本日の議事録を作成するので、その確認を各委員に依頼する。</p> <p>④今後のスケジュール ○次回の委員会は令和元年 12 月頃及び来年 3 月頃を予定している。</p> <p>⑤委員改選 ○本委員会は 2 年ごとに改選を行うため、平成 29 年 9 月～令和元年 8 月の任期で開催する最終の委員会となる。現委員のみなさまには次の任期（令和元年 9 月～令和 3 年 8 月）も本委員会の委員として継続いただく意向を伺っている。</p> <p>○これをもちまして、令和元年度第 1 回横浜市創造界限形成推進委員会は閉会となる。委員の皆様、長時間ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
資 料	<p>1 次第</p> <p>2 席次</p> <p>3 委員会委員名簿</p> <p>4 前回委員会議事録（平成 30 年度 3 月 22 日開催分）</p> <p>5 平成 30 年度事業評価（資料 1）</p> <p>6 象の鼻テラス運営団体選考のスケジュールについて（資料 2）</p>	
特記事項	<p>本日の議事録については、後日各委員に送付し、確認して頂く。</p>	

横浜市創造界限形成推進委員会委員名簿(9名)

氏名	所属団体(役職名)		分野
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業
野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
山口 真樹子	国際交流基金アジアセンター	舞台芸術コーディネーター	国際交流/舞台芸術
六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元

(案)

横浜市創造界隈形成推進委員会 分科会委員名簿

旧第一銀行横浜支店事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★若林 朋子	プロジェクトコーディネーター/プランナー		企業支援と芸術

旧関東財務局横浜財務事務所事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

旧老松会館事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 山口 真樹子	国際交流基金アジアセンター	舞台芸術コーディネーター	国際交流/舞台芸術
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
★恵志 美奈子	世田谷パブリックシアター 劇場部		公立文化施設

象の鼻テラス事業評価分科会

◎ 菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント

初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点事業評価分科会

◎ 日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

文化芸術創造発信拠点事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
★恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	専務理事	まちづくりと経営
★近澤 弘明	(株)近澤レース店	代表取締役	経営と地元

◎…議長

★事業評価及び運営団体選考分科会に参加する委員以外の有識者

令和2年度 事業評価シート(案)

拠点名: _____

運営期間: 令和○年度～令和●年度 (□年目 / ■年間)

【基本方針】

I 運営／経営評価		実施結果	事業評価		
			自己評価(成果・課題)	【チェック】	委員会評価
1	1				
	2				
	3				
2	1				
	2				
	3				
3	1				
	2				
	3				

※自己評価のチェックについて: 取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の姿勢や成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を大幅に下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	事業評価		
評価軸	自己評価(成果・課題)				【チェック】	委員会評価	
1	1						
	2						
	3						
2	1						
	2						
	3						
3	1						
	2						
	3						

【総評】

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の姿勢や成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を大幅に下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

【総評】(平成30年度)

【総評】(平成29年度)

【総評】(平成28年度)

【総評】(平成27年度)

◆○○拠点
【運営主体】○○

【基本方針 使命・理念】
○○○○○○○○○○○○○○○○

運営評価	≪評価軸≫	≪参考データ≫	≪評価≫
経営評価			

≪全体事業収支≫

全体事業収支

・事業収支予算書/決算書

■自己評価

■第三者評価

≪事業収入≫

チケット収入等
 受講料
 利用料

・報告書

■自己評価

■第三者評価

■自己評価

≪施設の維持管理状況≫

管理施設数
 施設の利用状況
 施設の改修状況
 安全対策

■第三者評価

【自由意見】

■自己評価

【その他運営団体からの自由意見】

■第三者評価

◆○○拠点【運営主体】○○

<p>創造性評価 政策達成評価</p>	<p>《平成30年度事業内容》</p>	<p>《評価の着眼点》 【30年度の目標値】</p>	<p>《参考データ》 (報告書に記載)</p>	<p>《評価》</p>
-------------------------	---------------------	--------------------------------	-----------------------------	-------------

評価軸① ●●

《○○》

-
-
-
-
-
-

-
-
-
-

-
-
-

■自己評価

《○○》

-
-
-

《○○》

-
-
-

■第三者評価

評価軸② ●●

《○○》

-
-
-
-

-
-
-

-
-
-
-

■自己評価

《○○》

-
-
-

■第三者評価

評価軸③ ○○

《○○》

-
-
-

-
-
-

-
-
-

■自己評価

■第三者評価

平成 31 年度事業計画及び事業評価軸（案）
 拠点名 _____

基本方針	
平成 29 年度課題	平成 30 年度進捗
平成 31 年度	
主な実施事業	事業評価軸
	《運営評価》
	《経営評価》
	《創造性評価》
	《政策達成評価》

平成 30 年度事業評価

施設名：〇〇

分科会名：〇〇分科会

総合評価

■ 評価

■ 課題

■ 市が取り組むべき事項